写

竜 創 広 第 339 号
令和４年(2022年)７月15日

竜王町コンパクトシティ化構想を考える会　御中

竜王町長　西田　秀治

公開質問状へのご回答

冠省　令和４年６月17日に提出されました公開質問状につきまして、別紙のとおり回答いたします。

竜王町コンパクトシティ化構想および竜王小学校の移転新築につきましては、これまで、タウンミーティングやまちづくり意見交換会、輝竜の郷づくり懇談会、さらには竜王町教育施設の今後のあり方検討委員会など、さまざまな機会を通じて町民の皆様をはじめとする関係者の方々からご意見をお聞きし、対話を重ねながら検討してまいりました。

人口減少の課題を克服し、将来にわたって活力ある住みよい竜王町を持続していくために、これらの事業を今しっかりと進めることが私の使命と考えています。

今後とも、町民の皆様、関係者の皆様と丁寧な対話を積み重ね、「若者も暮らしたい　希望かなえる　輝竜の郷」をともに創っていきたいと考えていますので、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。

なお、本回答書の取り扱いにつきましては、下記の点にご留意いただきますようお願いいたします。

記

1　貴会において本回答書を公開される際には、一部分のみを抜粋することなく、別紙を含む本回答書の全文を掲載していただきますよう、お願いいたします。

2　対話の透明性を確保する観点から、当町のホームページにて、貴会からの公開質問状および本回答書の全文を公開いたしますので、ご承知おきいただければと存じます。

草々

別紙

（質問）

①　「交流・文教ゾーン」は、令和３年３月配布のハザードマップでは浸水目安が１ｍ～３ｍ未満（200年確率）と書かれている地域です。しかも、2015年の水防法改正では1000年確率を目安とする内容に厳しく改正され、これによれば１ｍ～３ｍ以上となります。にもかかわらず、町は２ｍの盛り土で十分として対応しています。これでは問題があり、小学校としての機能と避難所としての役割をどのように維持するのか、具体的にお答えください。

（回答）

「竜王町洪水浸水・土砂災害ハザードマップ」は、河川のほか水路等（いわゆる内水）の氾濫についても考慮した「滋賀県地先の安全度マップ」（2020年３月更新）と一級河川日野川が洪水により氾濫した場合の浸水状況を想定した「日野川洪水浸水想定区域図」（2019年３月指定）を重ね合わせることにより、最大浸水深について住民にわかりやすく示したものであり、大きく５段階で区分し表示しております。

【浸水の目安】

0.5m未満（大人のひざ下）
0.5m～1.0m未満（１階部分）
1.0m～3.0m未満（１階部分水没の恐れ）
3.0m～5.0m（２階部分水没の恐れ）
5.0m以上（３階部分以上水没の恐れ）

「交流・文教ゾーン」を見てみますと、「滋賀県地先の安全度マップ」では、1.0m～2.0m、「日野川洪水浸水想定区域図」では、0.5m～3.0mとなっており、ハザードマップでは、1.0m～3.0mの区分となっていますが、個々の地点については、より詳細な浸水深が滋賀県より公表されています。

そして、このゾーンの詳細な浸水深は、200年確率の最大浸水深を示した「滋賀県地先の安全度マップ」では1.07m～1.86m、1000年確率を目安として洪水浸水の想定最大規模を示した「日野川洪水浸水想定区域図」では0.5m～2.0mとなっています。

以上のとおり、浸水深は最大でも2.0mと示されていますので、これを根拠として、約2mの盛土造成で浸水対策を行う計画としています。

（中心核整備課）

（質問）

②　新築移転の概算予算55億円としています。その根拠となる積算見積の内容についてお答えください。また、補助金の種類と金額についてお答えください。

（回答）

「交流・文教ゾーン」整備にかかる概算事業費については、標準的な土木設計費・築造費、また他市町の類似施設の事例等を参考にして試算しています。

・小学校建設費用（コミュニティーセンター含む）　30.0億円

・その他施設建設費用（こども園、学童保育所、給食センター）　12.6億円

・用地取得・造成費用（共有駐車場・公園含む）　7.4億円

・道路・インフラ整備費用　5.0億円

あくまで概算であり、令和４年度から、敷地造成や道路整備に係る実施設計、小学校建築に係る基本設計および実施設計に着手し、その中で事業費を更に精査していきたいと考えています。

また、補助金については、各施設の整備内容や整備時期により補助率等が異なりますので、金額は確定していませんが、現時点で、道路や公園整備に対しては、国の社会資本整備総合交付金、学校施設整備に対しては学校施設環境改善交付金の活用を予定しています。

なお、中心核（交流・文教ゾーン）の整備にあたっては、国等の補助金や基金（積立金）、起債（借入金）により必要な財源確保と財政運営を図っていきます。

（中心核整備課）

（質問）

③　小学校の新築については、現地建て替えの意見もあります。町として、現地建て替えの経費と、新築移転での経費を、どのように算出して比較検討されたのか、お答えください。

（回答）

現地建替えの場合は、校舎建築費用とは別に、現有敷地では不足している駐車スペースを確保するための専用駐車場敷地の用地取得および造成費用、ならびに仮設校舎の建築費用等として、約３億３千万円が見込まれる一方で、移転新築の場合は、校舎建築費用とは別に、小学校および共用駐車場敷地の用地取得および造成費用等として、約５億６千万円が見込まれますので、２億円あまりの差があります。

もっとも、移転新築については、スクールバスを利用している子どもや送迎で登下校している子どもが交通量（特に朝）の多い県道を横断しなくて済むことにより子どもたちの安全が確保できること、工事期間中における学校の教育活動への影響や工事車両の出入りによる危険が無いこと、仮設校舎が不要であり屋外教育活動への影響が少なく抑えられること、また校舎や体育館、プール、グラウンド等の一体的整備により現地での順次建て替えよりも短期間で竜王小学校として必要な施設が整備できること、さらに学童保育所や認定こども園等の教育施設が近接することで施設間連携が深まること、図書館や公民館等の周辺施設と駐車場を相互に有効活用することで小学校における学校行事や図書館、公民館での催し等において多くの駐車スペースを確保でき

ること等のメリットがあり、以上のような理由から、移転新築が適切な選択であると考えています。

なお今回の移転新築案は、校長、保護者、地域住民等で構成された「竜王町教育施設の今後のあり方検討委員会」や「コミュニティ・スクール竜王小学校学校運営協議会」においても慎重に議論されてきた結果を踏まえた内容となっています。

竜王町コンパクトシティ化構想では小学校跡地を居住ゾーンと位置付けており、住宅の新築や集合住宅の整備を可能にすることによって、若い世代や町外の方も「住みたい」「暮らしたい」と思える魅力ある空間を創出し、少子化対策や若者定住等といったまちの喫緊の課題解決につながると考えています。

（教育総務課）

（質問）

④　新築小学校の概要についてお答えください。教室の数や特別教室の設備など、避難所としての機能などについてお答えください。

（回答）

令和３年度に策定した竜王小学校建設基本計画では、整備のコンセプトを「竜王らしくキラリと輝く地域とともにある学校づくり」とし、「①あたたかさとやさしさのある学校」、「②学びがつながる・広がる学校」、「③地域とともにある学校」を整備の基本目標の３つの柱としています。

普通教室の数は、各学年に２教室を計画し、各教室にはワークスペースを設け、横断的な学び、多目的な学びに対応できる計画としています。さらに、ワークスペースと兼用しない廊下を設けることで通過交通による支障が生じないように配慮した計画としています。

家庭科室、理科室、図工室、少人数教室等の特別教室は、竜王小学校の教職員から聞き取りを行い、準備室も含め、これからの小学校に必要な教室を計画しています。

避難所としての機能については、校舎棟と体育館棟の接続には渡り廊下を設けず一体的に整備する計画としており、災害時には１階部分の特別教室と連携した利用がしやすいように配慮した計画としています。

その他、１階には特別教室や管理室等、２階には普通教室をまとめて配置することで、明確にブロック分けをし、学校が運営・管理しやすいように配慮するとともに、避難所としての機能が長期間必要となった場合でも、１階部分の特別教室等は地域に開放しながら、２階部分では子どもたちの学びが継続できるように計画しています。

竜王小学校建設基本計画を基に、令和４年度から５年度にかけては、基本設計および実施設計を行っていきますが、建設に当たってはコスト面や耐久性、メンテナンス対応、管理のしやすさ等も十分踏まえた上で、児童や教職員、地域の願いのこもった学校となるようにと考えています。

なお、竜王小学校建設基本計画（ダイジェスト版）は、町ホームページに

掲載しております。

（教育総務課）

（質問）

⑤　「交流・文教ゾーン」の事業計画は具体的にどのようになっているのかお答えください。

（回答）

竜王小学校の令和７年度開校をめざし、その後、各施設を順次整備していきます。具体的には、以下のとおりです。

・　事業用地の整備について

令和３年度に雨水排水計画、造成概略設計、道路予備設計、水道配水管基本設計を完了し、令和４年度に造成・新設道路・水道配水管の実施（詳細）設計、用地取得、土地収用法事業認定・開発等の各許認可、埋蔵文化財調査を行い、令和５年度から、道路および造成工事への着工を予定しています。

・　各施設の整備について

竜王小学校については、令和２年度に基本構想、令和３年度に基本計画を策定し、令和４年度から５年度にかけては、基本設計および実施設計を行っていきます。それぞれの設計が完了した後は、令和６年度にかけて建築工事に着手し、令和７年度の完成を予定しています。

その他の施設については、令和９年度に学童保育所、コミュニティセンター、公園、令和 10 年度にこども園、令和 12 年度に給食センターの完成を予定しており、これに向けて、各施設の整備に係る設計や建築工事を進めていきます。

なお、スケジュールについては現時点でのものであり、過日開催しました「輝竜の郷づくり懇談会」において、小学校の開校と学童保育所の開所は同時期である方が良い等のご意見もいただいておりますので、今後、利便性等も含めた施設間の連携を考慮し、ゾーンとして整備する上で、より良い効果が見込める場合には、スケジュールを調整していきたいと考えています。

（中心核整備課）

（質問）

⑥　令和４年度予算は各課 10％削減予算とのことですが、どのような理由によるのか。また、各課はどの予算を削減したのかお答えください。

（回答）

予算編成に当たっては、これまでも、地方自治法の規定に基づき、最小の経費で最大の効果を得るため、全事業において事業実施の根拠や費用対効果等を検証しながら、事業の取捨選択、手法の見直し等により経費の縮減に取り組んできたところです。

令和４年度予算編成においても、新型コロナウイルス感染症の影響等により、一時的に本町の大部分を占める町税を含めた一般財源の増加が見込

めないことや将来に向けた公共事業への投資等のため、予算編成の方針において、健全な財政運営を見据えた中で事業の見直し等により歳出の縮減に取り組み、部門単位で前年度比 10%削減を目標に予算要求するよう町長から指示したところです。

これに基づき、各課においてこれまでの事業のあり方を見直し、事務の効率化を図りながら住民サービスを低下させることなく、経費の縮減に努め、令和４年度当初予算額は、中心核整備に係る経費を除き、対前年度比 1.5%減額の予算編成となっております。

なお、削減した内容については、事務費等や委託料等の物件費を中心とした経費に係るものでございます。

（総務課）

（質問）

⑦　町民の合意を得たとしていますが、どのような方法で集約したのかお答えください。

（回答）

人口減少を克服し、町民の皆様と共に活力あるまちづくりを進めるため、平成 28 年度には町内 32 自治会で「わが町竜王町まちづくりタウンミーティング」を開催し、平成 30 年度には「コンパクトシティ化検討町民ワーキング」および「有識者による懇話会」を各 4 回、令和元年度には「まちづくり意見交換会」を町内 5 会場でそれぞれ開催しました。

また、竜王小学校の建替えについては、平成 29 年度に保護者、校長、地域住民および学識経験者等 11 人で構成する「竜王町教育施設の今後のあり方検討委員会」を設置し、1 年 4 ヶ月の期間をかけて慎重に議論を重ねていただきました。

そして、これらの会合等を通じて出された意見や報告等を踏まえて、竜王小学校の移転新築を含む竜王町コンパクトシティ化構想案をとりまとめ、令和 2 年 6 月に実施された町長選挙において同案の推進の是非を争点として選挙の結果、同案の推進を掲げた現職が当選し、これにより町民の皆様の信任を得たものと理解しております。

さらに、本年 2 月には、「輝竜の郷づくり懇談会」を 5 回開催し、第六次竜王町総合計画や竜王町コンパクトシティ化構想、竜王小学校の移転新築について改めて説明を行い、会場や意見シートにて 182 件のご意見やご提案等をいただきましたが（これらの意見等については、町の考え方と併せてホームページで公開しています。）、事業の内容については、おおむねご理解をいただくことができたものと考えています。

今後も引き続き町民の皆様や関係の方々との対話を重ね、できる限り事業に反映しつつ、後戻りすることなく着実にまちづくりを進めていきます。

（未来創造課）

（質問）

⑧　コンパクトシティ化構想の背景として、人口の減少、特に生産年齢人口の減少が指摘されています。この世代の流失原因をどのように分析され、この構想とどう関連するのかお答えください。

（回答）

第六次竜王町総合計画の策定に当たり実施した町民意識調査等の結果から、公共交通の不便さ、商業施設や医療機関が少ないこと、住宅を建築できる土地や集合住宅が限られ住む場所がないこと、地域活動に関する負担が重いことなどが若い世代の町外への転出の要因であると考えています。

竜王町コンパクトシティ化構想においては、これらの対策として、「中心核の整備」と「地域コミュニティの維持・活性化」を、道路や移動手段、情報のネットワーク等でつなぎ、子どもと暮らす喜びを実感できるまちづくりを進めることにより、活発な企業誘致とそれにともなう豊富な就労機会という従来の強みを活かして、人口減少に歯止めをかけたいと考えています。

中心核においては、竜王小学校を移転新築する交流・文教ゾーンのほか、居住ゾーンや複合ゾーンを整備して、住宅の新築や集合住宅の整備を可能にするとともに、商業施設や医療機関等の立地を進めることによって、若い世代や町外の方も「住みたい」「暮らしたい」と思える魅力あふれる空間を創出します。

また、地域コミュニティの維持・活性化については、若い世代が定住できるよう住宅地の確保や子育ての支援などの環境づくり、高齢者が安心して暮らし続けられる地域づくり、多世代が交流し女性や若者も活躍できる持続可能な自治会づくりを進めます。

さらに、路線バスやチョイソコりゅうおうの利用促進、道路の整備や維持管理、防災行政無線やしるみる竜王の活用等により、中心核と地域コミュニティをつなぎ合わせることで、町全体のバランスのとれた発展や魅力あるまちづくりを進めてまいります。

（未来創造課）